

平成 22 年 6 月 7 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2009

課題番号：19520560

研究課題名（和文） 分散した禅院文書群をもちいた情報復元の研究

研究課題名（英文） Research on medieval documents transferred from Zen Temples

研究代表者

山家 浩樹（YANBE KOUKI）

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：60191467

研究成果の概要（和文）：禅宗寺院やその塔頭（院家）に伝わった文書群には、その禅院の手を離れて分散したものが少なくない。分散した個々の文書は、収集家などのもとに存在している。そうした文書は、本来の文書群を再構成してそのなかに位置づけると、新たな情報を得て詳しい分析が可能となる。本研究では、まず分散した禅院文書を収集して、本来の文書群を復元し、そのうえで、文書群復元によって得られる新たな情報をもとに、個々の文書の分析を進めた。

研究成果の概要（英文）：There are many medieval documents transferred from Zen Temples and owned separately by collectors and museums. We cannot study these documents well which are short of information on inheritance. In this study we gather copies of these documents up and divide them according to Zen Temples which owned these documents before. Original information on each document can be restored from the group it once belonged to. So we are able to get much knowledge from medieval documents transferred from Zen Temples.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：日本中世史

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：中世史、禅宗史、史料学、古文書学、

## 1. 研究開始当初の背景

歴史研究において、史料は研究の素材である。それゆえ、史料そのものを分析する研究は歴史研究の基礎となる。史料は多様な要素

から構成され、そのひとつに伝来情報がある。とくに文書の場合、どのような文書群のなかで伝来したか、という情報は当該文書の分析に欠かせない。しかし、伝来情報は必ずしも

文面にあらわれないため、文書はいったん文書群から離れてしまうと（このような文書をここでは分散文書と称する）、しばしば伝来に関わる情報を失った状態に置かれる。そのため、分散文書は少なからず存在するものの、研究の素材として活用されてこなかった。どの文書群に属していたかを復元することができるならば、分散文書の分析はおおきく前進する。とりわけ、本来の文書群がすべて解体してしまっている場合、文書群の復元により得られる情報はおい。

そこで、中世文書を対象に、分散した文書を文書群へと復元する研究を行なうことを全体課題とする。そのうえで回復された情報をもとに個々の分散文書を検討する。

分散文書全体を対象とするとかなりの分量になるため、今回はテーマを禅宗寺院文書に絞った。禅院文書は伝来が複雑である。たとえば「建長寺長老」宛の文書の場合、当該文書は長老個人（A僧とする）に属するため、建長寺に伝わるのではなく、A僧の設けた塔頭（B院とする、建長寺内とは限らない）に伝来する。また、A僧の管轄下にある寺院は、B院の末寺となり、末寺の文書はB院に集約される。そのように集約された塔頭の文書群が分散すると復元は容易でない。しかも禅宗寺院は世襲でない割合が高いため、他宗派に比べて文書は分散しやすい傾向にある。それだけに文書群への復元により、多くのあらたな情報が期待される。

これまで分散した禅院文書を対象とした研究として、京都の長福寺に伝来しながら分散した中世文書を、いくつかのキーワードをもとに集成して史料集とした『長福寺文書の研究』（石井進編、1992年、山川出版社）がある。この成果をうけて長福寺文書を素材とした研究は前進しつつある。

この前提の上に、本研究の開始段階では、他の事例を積み重ねることが必要となっていた。包括的に禅院伝来の分散文書を析出し、分析を加えて文書群へと復元し、その結果のうえに禅僧・禅院への考察を深めることが求められていた。

## 2. 研究の目的

本研究は、禅宗寺院やその塔頭に伝来した文書のうち、他者の手に渡って分散したため、全体像が不明な状態で各所に伝来している

文書を集積し、本来の文書群に復元すること、および文書群再構成によって得られる新たな情報を活用して、個々の文書の研究をすすめることを目的とする。

### (1) 禅院からの分散文書の検出と文書群の復元

かつて禅宗寺院に伝来しながら、分散した中世文書を検出し、分析研究を加えて本来の文書群を復元することを第一の目的とする。

### (2) 復元された情報を活用した分散文書分析

復元された文書群から得られる、回復された情報をもとに、個々の分散文書の研究をさまざまに試行する。また、文書伝来論としてどのように位置づけられるか、についても研究を試みる。

## 3. 研究の方法

### (1) 検出の対象

次の2種類を研究の対象とする。

- ① 近世以降、禅院から分散した文書原本（おもに複製による）
- ② 写本に書写された文書写、とくに中世末以降に生成され禅院に伝来する雑録類に書写された文書写

### (2) 禅院から分散した文書の検出

#### ① 史料編纂所架蔵複本等からの検出

史料編纂所の書庫には、明治初年以來、各地に伝来した文書類を書写した影写本（透き写し）・謄写本（見取り写し）、昭和30年代以降に撮影した写真帳等を架蔵する。そのなかには分散文書の受け取り手となった蒐集家や機関の所蔵文書の書写・写真もおおく含まれる。しかも単に現時点での所蔵状況だけではなく、近代以降の各段階での所蔵状況に応じて把握できるため、逸亡したり所蔵者不明となった文書も含めて検出することができる。これらを素材に上記(1)①の禅院分散文書の原本類を検出する。

また史料編纂所には、文書写を集成した写本の再写本・写真も、ある程度の量を架蔵する。これらから上記(1)②を含む写本を見出し、禅院関係文書類を検出する。この類の写本では、戦国期に東国に教線を延ばした臨済宗妙心寺派の寺院におもに伝来する、禅僧間などで交換された詩文や書状を無秩序に集積した雑録的な写本が注目される。

加えて、史料編纂所所蔵原本からも検出する。また、活字本の検索も行い、各種の売立目録・蒐集文書目録などを中心に、分散文書を検出する。

## ② 史料調査による情報収集

おもに機関の蒐集した文書原本・写本で、いまだ史料編纂所で写真等を所持していないものは、調査を行い、写真撮影や写真購入を行なう。

また、禅院所蔵史料の調査を行なう。一部の文書が流出している禅院の場合に、分散元の文書所蔵の現状を把握するなど、禅院文書の伝存の現況を確認する。臨済宗妙心寺派の寺院の所蔵史料は、いまだ未解明の点も多いため、調査を行ない、雑録的な写本の把握に努める。

## (3) 文書群の復元と復元された情報を活用した分散文書分析

### ① 文書群の復元

分散した禅院文書の文書群への復元のために、検出した文書を集約し、相互比較を行なって、復元の手掛かりとなるキーワードを探し出し、グループ分けを重ねていく研究を行なう。

### ② 分散文書分析

文書群への復元により、本来の伝来先が判明し、どのような文書と伝来を同じくするかが明瞭となる。これら伝来先の情報と関連文書から得られる情報をもとに、個々の分散文書を分析研究する。

## 4. 研究成果

### (1) 史料調査の成果

史料調査先は、史料所蔵機関では、都内では国立公文書館内閣文庫、宮内庁書陵部、駒澤大学図書館ほか、名古屋では名古屋市蓬左文庫、京都では京都府立総合資料館ほか、奈良では天理大学附属天理図書館であり、おのおの関連史料を調査し、必要に応じて焼付け写真などを購入した。

また、本研究グループ単独で、あるいは他の研究グループと共同で、調査の許可を得られた禅院において、所蔵史料の調査を行なった。調査先は、岐阜県長春寺・梅龍寺(関市)、崇福寺(岐阜市)、龍福寺(富加町)、少林寺(各務原市、以上妙心寺派)、永保寺(多治見市)、および兵庫県円通寺、広島県仏通寺、

京都府鹿王院・鹿苑寺である。文書類をはじめ、典籍や頂相ほか多様な史料を調査・撮影した。おのおのの成果の概略は『東京大学史料編纂所報』43～45号に掲載した(45号は2010年10月刊行)。以下に一端を記す。

岐阜県長春寺では、戦国期の語録などのほか、妙心寺派寺院にまれに伝来する、書状等を集積した雑録をあらたに発見した(仮題「仮名法語書状等雑録」)。

兵庫県円通寺では、文書類のほか、これまで紹介されていない典籍類を調査し、「春庸宗恕語録」などを見出した。目録は、川本が中心となって作製し、『東京大学史料編纂所研究成果報告2009-6』に公表した。

また、京都府鹿王院では、卷子などになっていない中世文書600点余を調査した。鹿王院からは史料の一部が流出し、21点の分散文書が確認されており、鹿王院現蔵文書との対比検討を行ない、上記成果報告に分散文書の翻刻と個別検討を掲載した。

### (2) 文書群復元と分散文書分析の成果

いくつかの禅院分散文書群を復元し、各文書の分析を行なった。応募段階では、文書群へと復元できたものを中心に電子データ化し、所蔵者の許諾が得られれば、史料編纂所の公開データベースに搭載する予定であった。しかし、平成20・21年度、研究所の耐震工事により、謝金雇用者の作業スペースが確保しえずに雇用を見送ったため、必要なデータ整形ができなかったこと、理解を得るのに困難な所蔵者が含まれたことなどにより、成果報告段階では実現が難しいと判断した。そこで、当面は活字媒体で成果を公表することし、個別論文のほか、『東京大学史料編纂所研究成果報告2009-6』として冊子体で公表した。

この冊子では、南禅寺慈聖院(末寺美濃大興寺・天龍寺寿寧院等を含む)、同東禅院、同徳雲院、相国寺普広院、京都安禅寺、京都長福寺、武蔵金陸寺等の文書群を復元し、文書を翻刻のうえ、個別文書に分析を加えた。

以下、冊子体と個別論文で公表した研究成果の一端を記す。

#### ① 南禅寺慈聖院文書

前田育徳会尊経閣文庫、美濃大興寺、早稲田大学図書館、東京大学文学部などの現蔵文書、蒐集家の文書群である影写本「吉田文書」「服部玄三氏所蔵文書」「磯谷文書」、写本「諸

家文書纂」などあわせて 24 の史料群から 65 通を検出し、翻刻した。ほかにすでにまとまった翻刻のある文書群など 70 余通を 2 つの目録で示した。個別文書分析では、各文書にみえる慈聖院の所領につき、南北朝後期の慈聖院領目録との関係や慈聖院への寄進の経緯を明らかにし、その政治的背景を探った。とくに幕府奉行人の慈聖院への所領寄進について考察を深めた。また末寺文書の慈聖院への集積の様態などを検討した。

#### ② 南禅寺東禅院文書

東禅院にかつて存在した 9 通 1 巻、売立目録に掲載された 11 通 1 巻、南禅寺真乗院文書、写本「輯古帳」など、8 の史料群から 32 点を検出し、翻刻した。東禅院の開祖景南英文の俗縁に由来する所領蓄積の様態や、摂津国所領における細川氏との関係について分析した。

#### ③ 相国寺普広院文書

普広院現蔵文書、相国寺慈照院文書、京都大学総合博物館所蔵文書、影写本「塚本文書」など 8 の史料群から 58 点を検出し、翻刻した。所領目録と現存文書の対比から中近世における文書保管を検討し、文書群としての把握から本末関係、塔頭の將軍菩提所への転換の背景などを考察した。

#### ④ 嵯峨(天龍寺)南芳院文書

イェール大学バイネッケ図書館現蔵文書の伝来を検討し、影写本「森田博三氏所蔵文書」ほかとあわせて南芳院文書を復元し、中世段階での文書群の様態と比較検討した。そのうえで、南芳院は通常の塔頭と異なり、足利將軍家の関わる「公方御寺」であったことを指摘した。

#### ⑤ 「菊隠録」所収の甲斐恵林寺宛書状の分析

戦国期、禅僧らの書状を集めた雑録類を分析する延長として、曹洞宗僧の語録に見える禅僧書状を分析し、恵林寺が五山派から妙心寺派に移行する過程を検討した。

#### ⑥ 蒐集文書による文書伝来研究

蒐集家は、分散文書の主たる所蔵者であり、蒐集家の文書群形成を検討することは、分散文書の集積や分析に有効となる。その検討は、近世・近代における文書伝来の事例研究ともなる。末柄は、慶應義塾大学現蔵「反町文書」の各文書を本来の文書群に復元し、この文書群の蒐集の特徴を分析し、分散文書研究の意義を明らかにした。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

① 山家浩樹、嵯峨南方院とその文書、日本歴史、査読有、739 号、2009、77～84 頁

② 末柄豊、蒐集文書の史料論—「反町文書」を素材として—、佐藤道生編『古文書の諸相』慶應義塾大学文学部、査読無、2008、115～143 頁

③ 山家浩樹、恵林寺をめぐる三題、花園大学禅学研究、査読無、86 号、2008、78～98 頁

④ 山家浩樹、室町幕府前期における奉行人の所領、室町時代研究、査読無、2 号、2008、201～243 頁

[図書] (計 1 件)

① 山家浩樹、末柄豊、出版社無、東京大学史料編纂所研究報告 2009-6 分散した禅院文書群をもちいた情報復元の研究、2010、116 頁

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

山家 浩樹 (YANBE KOUKI)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：60191467

##### (2) 研究分担者 (いずれも H19 年度、H20～21 年度は連携研究者)

渡邊 正男 (WATANABE MASAO)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号：80230994

末柄 豊 (SUEGARA YUTAKA)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号：70251478

高橋 典幸 (TAKAHASHI NORIYUKI)  
東京大学・史料編纂所・助教  
研究者番号：10292799

川本 慎自 (KAWAMOTO SINJI)  
東京大学・史料編纂所・助教  
研究者番号：30323661